

1 概況

～ 製造品出荷額等、付加価値額とも前年と比べて減少 ～

製造品出荷額等は10兆397億円で全国11位、付加価値額は2兆9125億円で全国13位

- 製造品出荷額等は前年より7億円減少し、中国・四国・九州地方では平成15年以来15年ぶりに1位から2位へ（全国10位の福岡県と入れ替わり）
- 付加価値額は前年より2655億円減少したものの、中国・四国・九州地方で8年連続1位

- 事業所数は3年連続で減少し、従業者数は6回連続の増加となった。製造品出荷額等は2年ぶり、付加価値額は3年連続の減少となった。
- 製造品出荷額等は全国11位（前年10位）、付加価値額は全国13位（前年11位）であった。

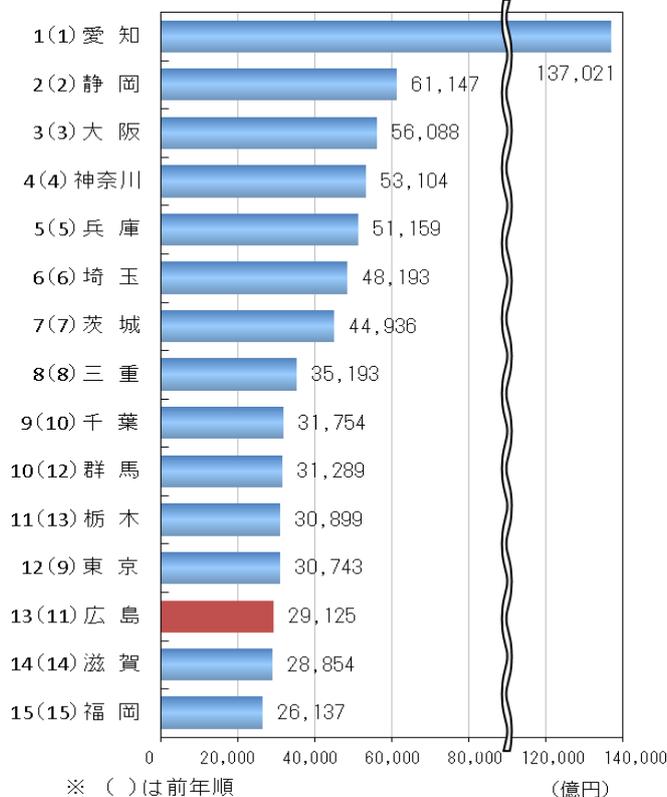
表1 主要項目の状況(従業者4人以上の事業所)

| 項目          | 広島県     |          |        |                  | 全国           |           |        |
|-------------|---------|----------|--------|------------------|--------------|-----------|--------|
|             | 実数      | 前年からの増減数 | 前年比(%) | 全国シェア(%)<br>(前年) | 全国順位<br>(前年) | 実数        | 前年比(%) |
| 事業所数(所)     | 4,688   | △114     | △2.4   | 2.5 (2.6)        | 15 (14)      | 185,116   | △1.7   |
| 従業者数(人)     | 220,240 | 3,341    | 1.5    | 2.8 (2.8)        | 10 (10)      | 7,778,124 | 1.0    |
| 製造品出荷額等(億円) | 100,397 | △7       | △0.0   | 3.0 (3.1)        | 11 (10)      | 3,318,094 | 4.0    |
| 付加価値額(億円)   | 29,125  | △2,655   | △8.4   | 2.8 (3.1)        | 13 (11)      | 1,043,007 | 0.9    |

図1 製造品出荷額等：上位15都道府県

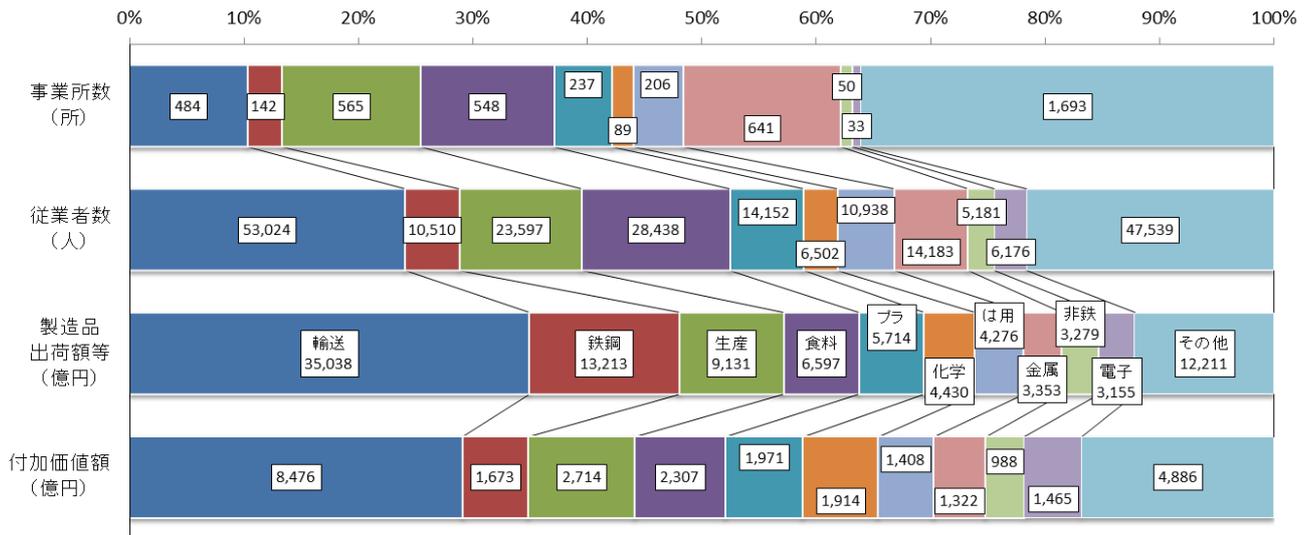


図2 付加価値額：上位15都道府県



[資料] 経済産業省『2019年工業統計表「地域別統計表」』（令和2年8月25日公表）により作成

図3 広島県の主要産業の構成（製造品出荷額等上位10業種・従業員4人以上の事業所）



(1) 事業所数・従業員数

事業所数は 4688 事業所で、前年と比較して 2.4%減少した〔114 事業所減〕(表 2, 図 4)。令和元年の事業所数の全国順位は 15 位で、前年の 14 位から順位を 1 つ下げた(表 1)。

従業員数は 22 万 240 人で、前年と比較して 1.5%増加した〔3341 人増〕(表 2, 図 4)。令和元年の従業員数の全国順位は 10 位で、前年と同順位であった(表 1)。

表2 事業所数及び従業員数の年次別推移

(単位：所、人、%) (従業員4人以上の事業所)

| 年次       | 事業所数  |        | 従業員数    |       |
|----------|-------|--------|---------|-------|
|          | 前年比   | 前年比    | 前年比     | 前年比   |
| 平成20年    | 6 157 | 0.9    | 220 032 | △ 1.1 |
| 平成21年    | 5 638 | △ 8.4  | 205 008 | △ 6.8 |
| 平成22年    | 5 490 | △ 2.6  | 206 653 | 0.8   |
| 平成24年(※) | 5 814 | 5.9    | 207 384 | 0.4   |
| 平成24年    | 5 346 | △ 8.0  | 204 366 | △ 1.5 |
| 平成25年    | 5 194 | △ 2.8  | 206 133 | 0.9   |
| 平成26年    | 5 086 | △ 2.1  | 209 515 | 1.6   |
| 平成28年(※) | 5 661 | 11.3   | 211 902 | 1.1   |
| 平成29年    | 4 920 | △ 13.1 | 215 192 | 1.6   |
| 平成30年    | 4 802 | △ 2.4  | 216 899 | 0.8   |
| 令和元年     | 4 688 | △ 2.4  | 220 240 | 1.5   |

注1：(※)付きの年次は経済センサス-活動調査の数値、その他の年次は工業統計調査の数値である。

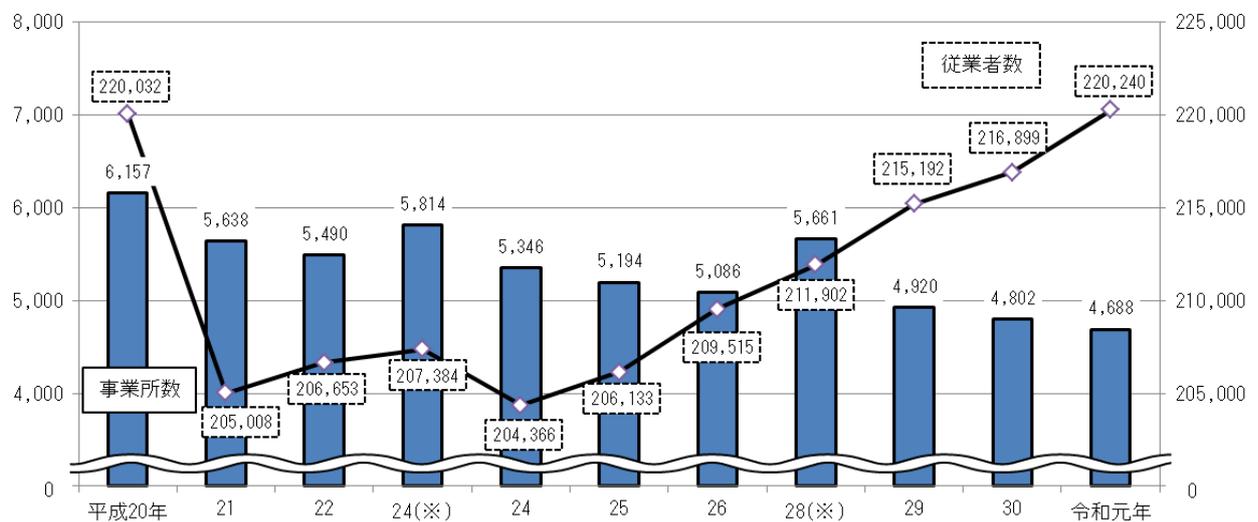
2：(※)付き24年は平成24年2月1日現在、(※)付き28年は平成28年6月1日現在、平成26年以前の(※)無しの年次は同じ年の12月31日現在、平成29年以降は同じ年の6月1日現在の数値である。

3：平成28年の前年比は、「26年比」である。

事業所数 (所)

図4 事業所数及び従業員数の年次別推移 (従業員4人以上の事業所)

従業員数 (人)



注：上記「表2」の脚注に同じ。

## (2) 製造品出荷額等・付加価値額

製造品出荷額等は10兆397億円で、前年と比較して0.0%減少した〔7億円減〕(表3, 図5)。平成30年の製造品出荷額等の全国順位は11位で、前年の10位から順位を1つ下げた(表1, 図1・5)。

付加価値額は2兆9125億円で、前年と比較して8.4%減少した〔2655億円減〕(表3, 図5)。平成30年の付加価値額の全国順位は13位で、前年の11位から順位を2つ下げた(表1, 図2・5)。

**表3 製造品出荷額等及び付加価値額の年次別推移**  
(単位: 百万円, %) (従業員4人以上の事業所)

| 年次       | 製造品出荷額等 |            | 付加価値額  |           |
|----------|---------|------------|--------|-----------|
|          | 前年比     |            | 前年比    |           |
| 平成20年    | 1.3     | 10 293 547 | △ 6.8  | 2 899 026 |
| 平成21年    | △ 23.1  | 7 917 797  | △ 26.0 | 2 143 846 |
| 平成22年    | 10.3    | 8 732 482  | 10.3   | 2 364 512 |
| 平成23年(※) | 0.0     | 8 734 846  | 11.0   | 2 625 147 |
| 平成24年    | △ 4.5   | 8 342 810  | △ 11.4 | 2 326 648 |
| 平成25年    | 2.6     | 8 555 642  | 4.7    | 2 437 145 |
| 平成26年    | 11.8    | 9 568 452  | 16.5   | 2 840 443 |
| 平成27年(※) | 8.1     | 10 342 775 | 12.9   | 3 205 886 |
| 平成28年    | △ 3.9   | 9 941 466  | △ 0.2  | 3 200 092 |
| 平成29年    | 1.0     | 10 040 407 | △ 0.7  | 3 178 011 |
| 平成30年    | △ 0.0   | 10 039 720 | △ 8.4  | 2 912 463 |

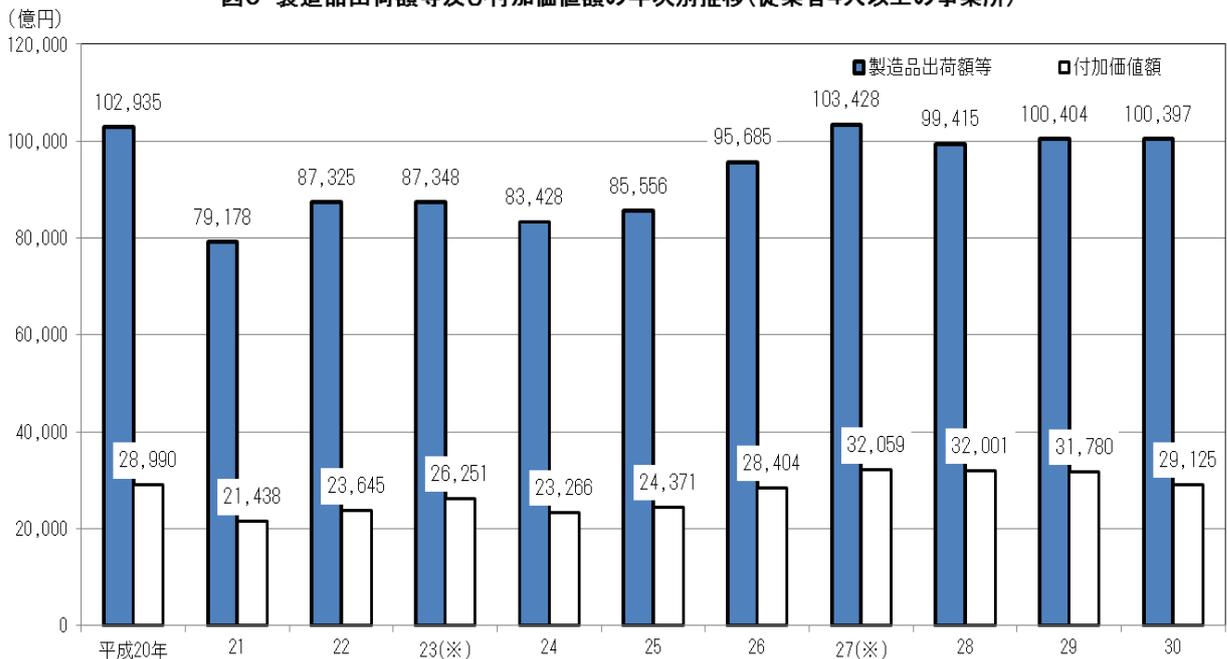
注1: 付加価値額について、従業員4～29人の事業所は粗付加価値額である。

注2: 平成20年調査において、日本標準産業分類の改定が行われたため、前年比については平成19年の数値を平成20年の分類で再集計し計算している。

注3: (※)付きの年次は経済センサス・活動調査の数値、その他の年次は工業統計調査の数値である。

注4: 製造品出荷額等、付加価値額については、それぞれの年次における1～12月の1年間の数値である。

**図5 製造品出荷額等及び付加価値額の年次別推移(従業員4人以上の事業所)**



### 全国順位

|         | 平成20年 | 21年 | 22年 | 23年(※) | 24年 | 25年 | 26年 | 27年(※) | 28年 | 29年 | 30年 |
|---------|-------|-----|-----|--------|-----|-----|-----|--------|-----|-----|-----|
| 製造品出荷額等 | 10    | 11  | 10  | 10     | 10  | 10  | 10  | 10     | 9   | 10  | 11  |
| 付加価値額   | 10    | 15  | 15  | 11     | 12  | 13  | 11  | 10     | 9   | 11  | 13  |

注: 上記「表3」の脚注に同じ。

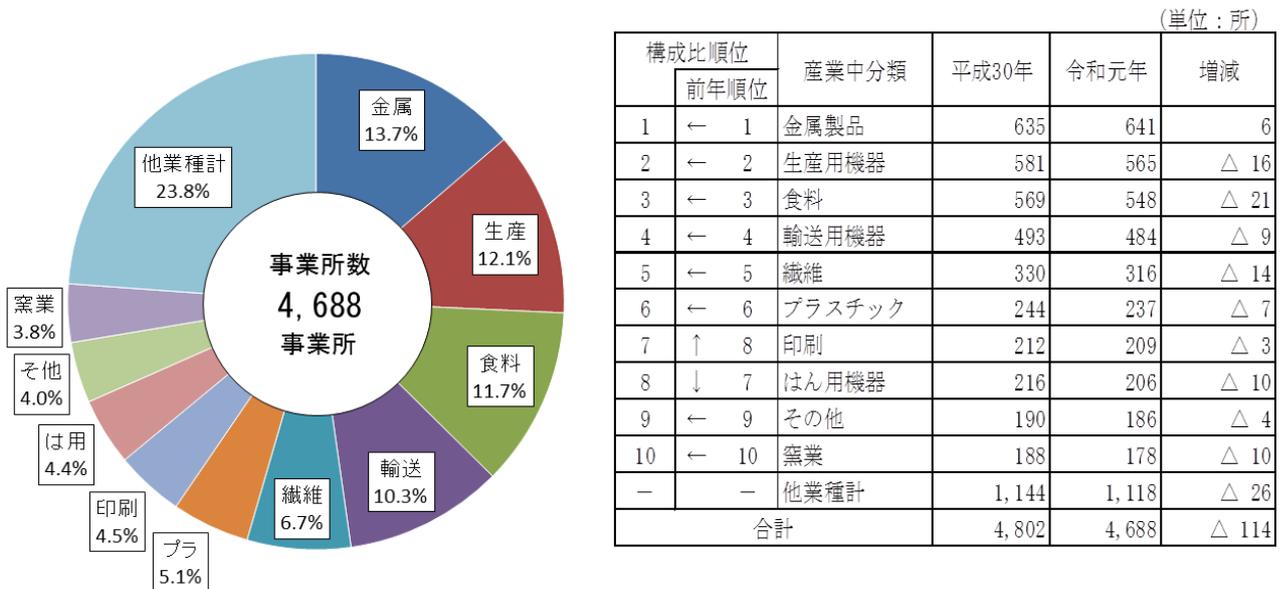
## 2 産業別の状況

### (1) 事業所数 ～上位3業種は金属製品、生産用機器、食料～

事業所数は4688事業所となり、3年連続の減少となった（前年比2.4%減〔114事業所減〕）。

産業中分類別で事業所数が最も多いのは金属製品（641事業所、構成比13.7%）で、次いで生産用機器（565事業所、構成比12.1%）、食料（548事業所、構成比11.7%）の順となった。上位3業種は前年と同じ順位で、全体の4割近く（37.4%）を占めている（図6・表4）。

図6・表4 事業所数の産業別状況（従業者4人以上の事業所・構成比順）



前年と比較して増加したのは金属製品（6事業所増）、化学（3事業所増）、電子部品（1事業所増）であり、減少したのは食料（21事業所減）、生産用機器（16事業所減）、繊維（14事業所減）など18業種であった。飲料、石油、なめし革には増減がなかった（表5）。

表5 事業所数の増減の大きな産業（従業者4人以上の事業所）

(単位：所、%)

| 増加    |       |      |     |     | 減少    |       |      |      |       |
|-------|-------|------|-----|-----|-------|-------|------|------|-------|
| 産業中分類 | 平成30年 | 令和元年 | 増加数 | 前年比 | 産業中分類 | 平成30年 | 令和元年 | 減少数  | 前年比   |
| 金属製品  | 635   | 641  | 6   | 0.9 | 食料    | 569   | 548  | △ 21 | △ 3.7 |
| 化学    | 86    | 89   | 3   | 3.5 | 生産用機器 | 581   | 565  | △ 16 | △ 2.8 |
| 電子部品  | 32    | 33   | 1   | 3.1 | 繊維    | 330   | 316  | △ 14 | △ 4.2 |
|       |       |      |     |     | 窯業    | 188   | 178  | △ 10 | △ 5.3 |
|       |       |      |     |     | はん用機器 | 216   | 206  | △ 10 | △ 4.6 |

(増減数の大きな上位5業種)

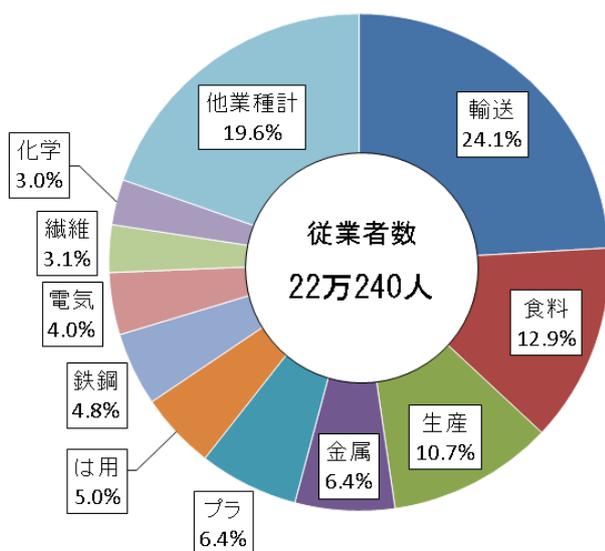
(2) 従業者数 ～上位3業種は輸送用機器, 食料, 生産用機器～

従業者数は22万240人となり、6回連続の増加となった(前年比1.5%増〔3341人増〕)。

産業中分類別で従業者数が最も多いのは輸送用機器(5万3024人, 構成比24.1%)で、次いで食料(2万8438人, 構成比12.9%), 生産用機器(2万3597人, 構成比10.7%)の順となった。上位3業種は前年と同じ順位で、全体の5割近く(47.7%)を占めている(図7・表6)。

図7・表6 従業者数の産業別状況(従業者4人以上の事業所・構成比)

(単位:人)



| 構成比順位 | 前年順位 | 産業中分類  | 平成30年   | 令和元年    | 増減    |
|-------|------|--------|---------|---------|-------|
|       |      |        |         |         |       |
| 1     | ← 1  | 輸送用機器  | 52,122  | 53,024  | 902   |
| 2     | ← 2  | 食料     | 28,057  | 28,438  | 381   |
| 3     | ← 3  | 生産用機器  | 24,052  | 23,597  | △ 455 |
| 4     | ← 4  | 金属製品   | 13,453  | 14,183  | 730   |
| 5     | ← 5  | プラスチック | 13,099  | 14,152  | 1,053 |
| 6     | ← 6  | はん用機器  | 10,731  | 10,938  | 207   |
| 7     | ← 7  | 鉄鋼     | 9,973   | 10,510  | 537   |
| 8     | ← 8  | 電気機器   | 8,824   | 8,889   | 65    |
| 9     | ← 9  | 繊維     | 6,880   | 6,813   | △ 67  |
| 10    | ↑ 11 | 化学     | 5,870   | 6,502   | 632   |
| -     | -    | 他業種計   | 43,838  | 43,194  | △ 644 |
| 合計    |      |        | 216,899 | 220,240 | 3,341 |

前年と比較して増加したのはプラスチック(1053人増), 輸送用機器(902人増), 金属製品(730人増)など14業種であり, 減少したのは生産用機器(455人減), 電子部品(388人減), 木材(320人減)など10業種であった(表7)。

表7 従業者数の増減の大きな産業(従業者4人以上の事業所) (単位:人, %)

| 増加     |        |        |       |      | 減少    |        |        |       |       |
|--------|--------|--------|-------|------|-------|--------|--------|-------|-------|
| 産業中分類  | 平成30年  | 令和元年   | 増加数   | 前年比  | 産業中分類 | 平成30年  | 令和元年   | 減少数   | 前年比   |
| プラスチック | 13,099 | 14,152 | 1,053 | 8.0  | 生産用機器 | 24,052 | 23,597 | △ 455 | △ 1.9 |
| 輸送用機器  | 52,122 | 53,024 | 902   | 1.7  | 電子部品  | 6,564  | 6,176  | △ 388 | △ 5.9 |
| 金属製品   | 13,453 | 14,183 | 730   | 5.4  | 木材    | 3,701  | 3,381  | △ 320 | △ 8.6 |
| 化学     | 5,870  | 6,502  | 632   | 10.8 | 家具    | 3,154  | 2,929  | △ 225 | △ 7.1 |
| 鉄鋼     | 9,973  | 10,510 | 537   | 5.4  | 窯業    | 5,035  | 4,833  | △ 202 | △ 4.0 |

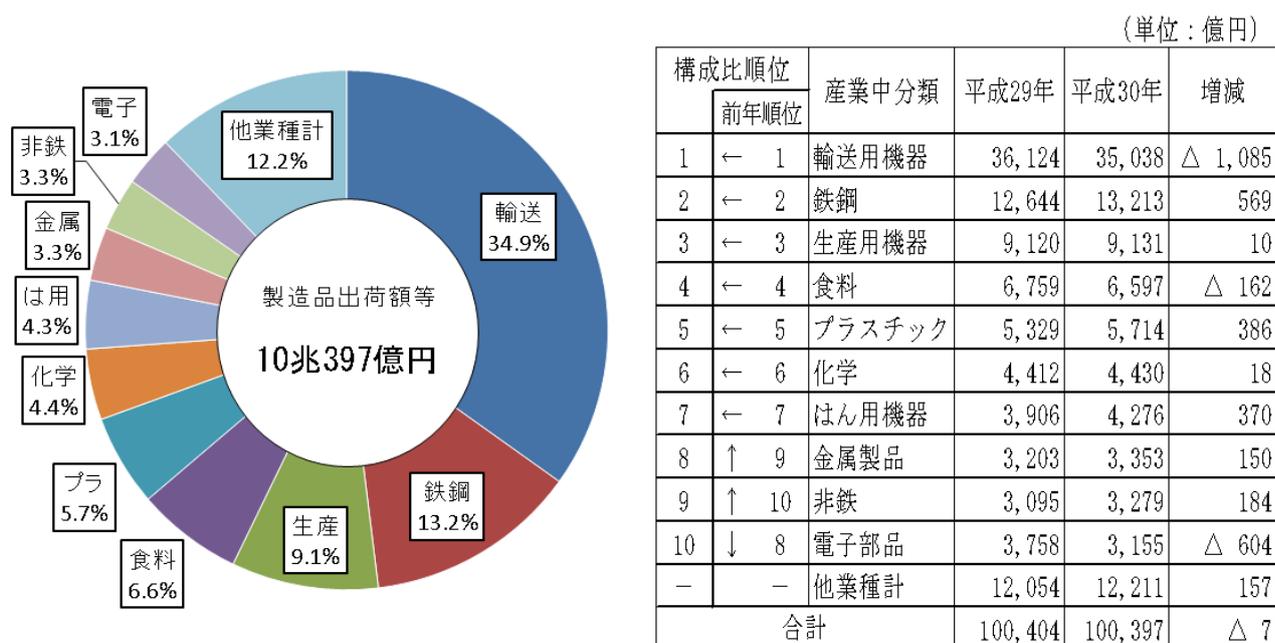
(増減数の大きな上位5業種)

(3) 製造品出荷額等 ～上位3業種は輸送用機器, 鉄鋼, 生産用機器～

製造品出荷額等は10兆397億円となり, 2年ぶりの減少となった(前年比0.0%減〔7億円減〕)。

産業中分類別で製造品出荷額等が最も多いのは輸送用機器(3兆5038億円, 構成比34.9%)で, 次いで鉄鋼(1兆3213億円, 構成比13.2%), 生産用機器(9131億円, 構成比9.1%)の順となった。上位3業種は前年と同じ順位で, 全体の6割近く(57.2%)を占めている(図8・表8)。

図8・表8 製造品出荷額等の産業別状況(従業員4人以上の事業所・構成比)



前年と比較して増加したのは鉄鋼(569億円増), プラスチック(386億円増), はん用機器(370億円増)など14業種であり, 減少したのは輸送用機器(1085億円減), 電子部品(604億円減), 木材(162億円減)など10業種であった(表9)。

表9 製造品出荷額等の増減の大きな産業(従業員4人以上の事業所)

(単位: 億円, %)

| 増加     |        |        |     |      | 減少    |        |        |         |        |
|--------|--------|--------|-----|------|-------|--------|--------|---------|--------|
| 産業中分類  | 平成29年  | 平成30年  | 増加額 | 前年比  | 産業中分類 | 平成29年  | 平成30年  | 減少額     | 前年比    |
| 鉄鋼     | 12,644 | 13,213 | 569 | 4.5  | 輸送用機器 | 36,124 | 35,038 | △ 1,085 | △ 3.0  |
| プラスチック | 5,329  | 5,714  | 386 | 7.2  | 電子部品  | 3,758  | 3,155  | △ 604   | △ 16.1 |
| はん用機器  | 3,906  | 4,276  | 370 | 9.5  | 木材    | 1,356  | 1,193  | △ 162   | △ 12.0 |
| その他    | 598    | 825    | 228 | 38.1 | 食料    | 6,759  | 6,597  | △ 162   | △ 2.4  |
| 非鉄     | 3,095  | 3,279  | 184 | 5.9  | 家具    | 440    | 385    | △ 55    | △ 12.5 |

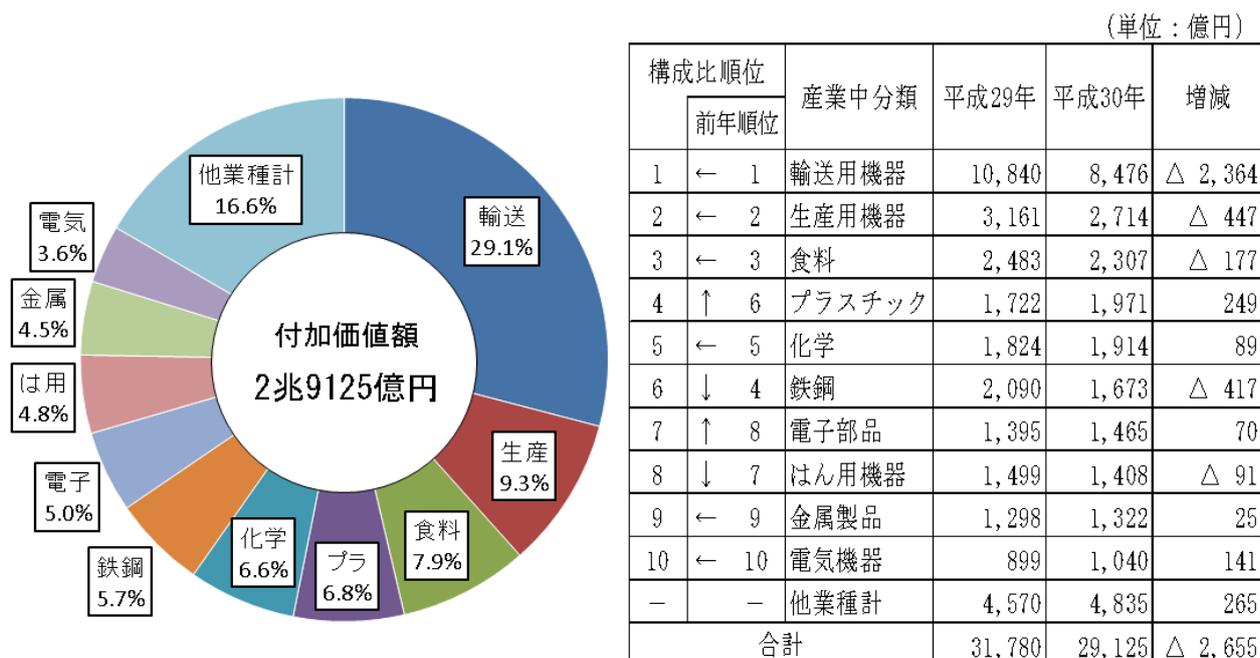
(増減額の大きな上位5業種)

(4) 付加価値額 ～上位3業種は輸送用機器, 生産用機器, 食料～

付加価値額は、2兆9125億円となり、3年連続の減少となった（前年比8.4%減〔2655億円減〕）。

産業中分類別で付加価値額が最も多いのは輸送用機器（8476億円、構成比29.1%）で、次いで生産用機器（2714億円、構成比9.3%）、食料（2307億円、構成比7.9%）の順となった。上位3業種は、前年と同じ順位となった。上位3業種で、全体の5割近く（46.3%）を占めている（図9・表10）。

図9・表10 付加価値額の産業別状況（従業者4人以上の事業所・構成）



前年と比較して増加したのはプラスチック（249億円増）、電気機器（141億円増）、情報機器（101億円増）など14業種であり、減少したのは輸送用機器（2364億円減）、生産用機器（447億円減）、鉄鋼（417億円減）など10業種であった（表11）。

表11 付加価値額の増減の大きな産業（従業者4人以上の事業所）

(単位：億円, %)

| 産業中分類  | 増加    |       |     |       | 減少    |        |       |         |        |
|--------|-------|-------|-----|-------|-------|--------|-------|---------|--------|
|        | 平成29年 | 平成30年 | 増加額 | 前年比   | 産業中分類 | 平成29年  | 平成30年 | 減少額     | 前年比    |
| プラスチック | 1,722 | 1,971 | 249 | 14.5  | 輸送用機器 | 10,840 | 8,476 | △ 2,364 | △ 21.8 |
| 電気機器   | 899   | 1,040 | 141 | 15.7  | 生産用機器 | 3,161  | 2,714 | △ 447   | △ 14.1 |
| 情報機器   | 71    | 172   | 101 | 142.0 | 鉄鋼    | 2,090  | 1,673 | △ 417   | △ 20.0 |
| その他    | 273   | 374   | 101 | 36.9  | 食料    | 2,483  | 2,307 | △ 177   | △ 7.1  |
| 非鉄     | 898   | 988   | 90  | 10.0  | はん用機器 | 1,499  | 1,408 | △ 91    | △ 6.1  |

(増減額の大きな上位5業種)

### (5) 現金給与総額 ～6年連続で増加～

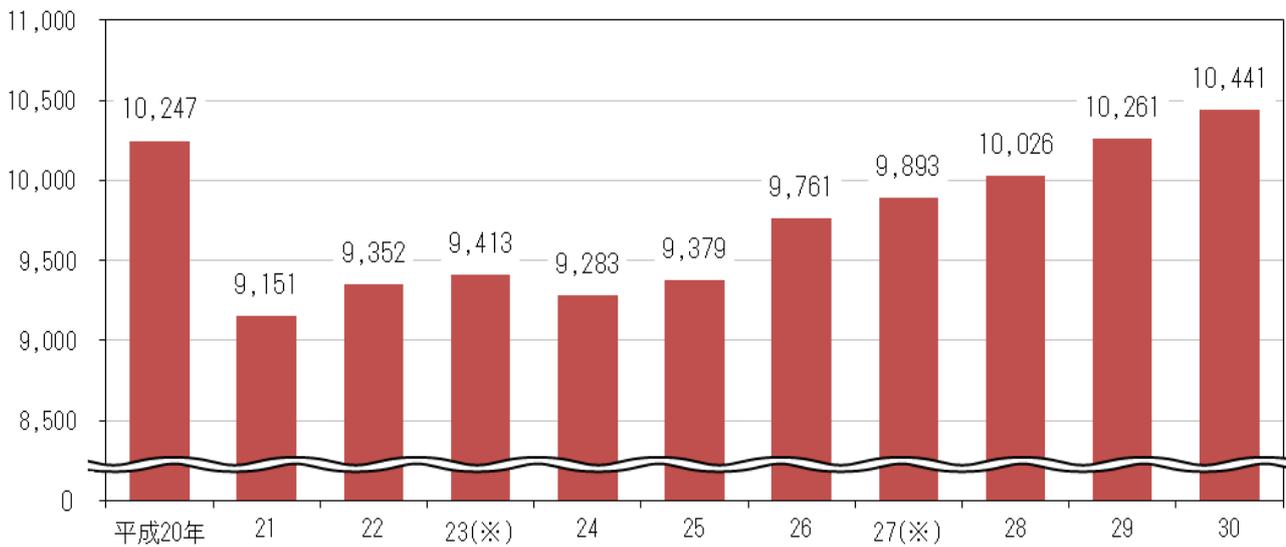
現金給与総額は1兆441億円となり、6年連続の増加となった(前年比1.8%増[180億円増]) (図10、表12)。

産業中分類別で現金給与総額が最も多いのは輸送用機器(2985億円、構成比28.6%)で、次いで生産用機器(1237億円、構成比11.8%)、食料(828億円、構成比7.9%)の順となっており、上位3業種で、全体の5割近く(48.4%)を占めている。

前年と比較して増加したのはプラスチック(前年比10.6%増[60億円増])、輸送用機器(前年比1.9%増[56億円増])、金属製品(前年比9.0%増[50億円増])など11業種であり、減少したのは生産用機器(前年比1.8%減[22億円減])、電子部品(前年比3.6%減[14億円減])、業務用機器(前年比10.9%減[14億円減])など13業種であった。(図11、表12)。

(億円)

図10 現金給与総額の推移



注: (※)の年次は経済センサス-活動調査の数値, その他の年次は工業統計の数値である。

図11 産業中分類別現金給与総額

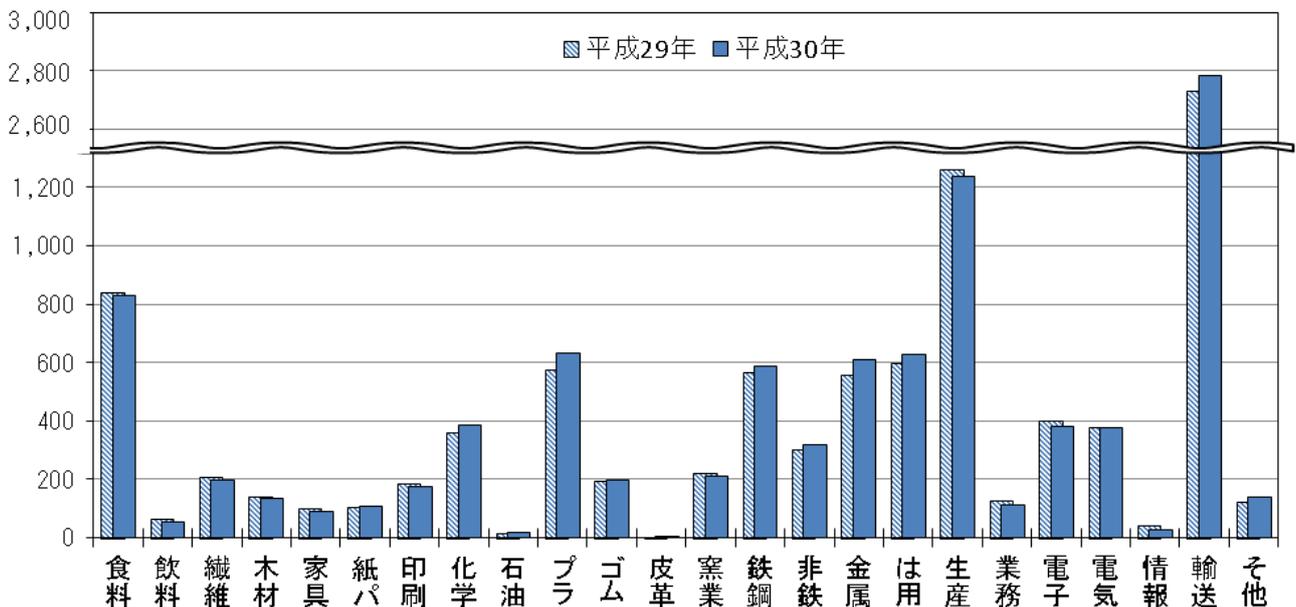


表12 産業中分類別現金給与総額

(単位：億円，%)

| 産業中分類  | 現金給与総額 |        | 前年差額 | 前年比    |
|--------|--------|--------|------|--------|
|        | 平成29年  | 平成30年  |      |        |
| 総数     | 10,261 | 10,441 | 180  | 1.8    |
| 食料     | 836    | 828    | △ 9  | △ 1.1  |
| 飲料     | 62     | 56     | △ 7  | △ 10.4 |
| 繊維     | 206    | 198    | △ 8  | △ 4.0  |
| 木材     | 140    | 133    | △ 8  | △ 5.4  |
| 家具     | 97     | 91     | △ 6  | △ 6.6  |
| 紙製品    | 104    | 109    | 4    | 4.1    |
| 印刷     | 183    | 177    | △ 6  | △ 3.1  |
| 化学     | 357    | 384    | 28   | 7.8    |
| 石油     | 14     | 16     | 1    | 8.2    |
| プラスチック | 572    | 633    | 60   | 10.6   |
| ゴム     | 194    | 197    | 2    | 1.3    |
| なめし革   | 5      | 5      | 0    | △ 0.1  |
| 窯業     | 221    | 213    | △ 9  | △ 3.9  |
| 鉄鋼     | 563    | 587    | 24   | 4.3    |
| 非鉄     | 298    | 317    | 18   | 6.1    |
| 金属製品   | 558    | 608    | 50   | 9.0    |
| はん用機器  | 597    | 630    | 33   | 5.5    |
| 生産用機器  | 1,259  | 1,237  | △ 22 | △ 1.8  |
| 業務用機器  | 126    | 112    | △ 14 | △ 10.9 |
| 電子部品   | 398    | 383    | △ 14 | △ 3.6  |
| 電気機器   | 377    | 375    | △ 3  | △ 0.7  |
| 情報機器   | 41     | 29     | △ 12 | △ 29.4 |
| 輸送用機器  | 2,929  | 2,985  | 56   | 1.9    |
| その他    | 121    | 141    | 19   | 16.1   |

### (6) 原材料使用額等 ～2年連続で増加～

原材料使用額等は6兆8913億円となり、2年連続の増加となった（前年比3.1%増〔2042億円増〕）（図12、表13）。

産業中分類別で原材料使用額等が最も多いのは輸送用機器（2兆6815億円、構成比38.9%）で、次いで鉄鋼（1兆1361億円、構成比16.5%）、生産用機器（6254億円、構成比9.1%）の順となっており、上位3業種で、全体の6割以上（64.5%）を占めている。

前年と比較して増加したのは鉄鋼（前年比8.9%増〔928億円増〕）、輸送用機器（前年比3.4%増〔874億円増〕）、はん用機器（前年比14.1%増〔325億円増〕）など14業種であり、減少したのは電子部品（前年比33.6%減〔611億円減〕）、木材（前年比14.3%減〔120億円減〕）、化学（前年比3.4%減〔82億円減〕）など10業種であった（図13、表13）。

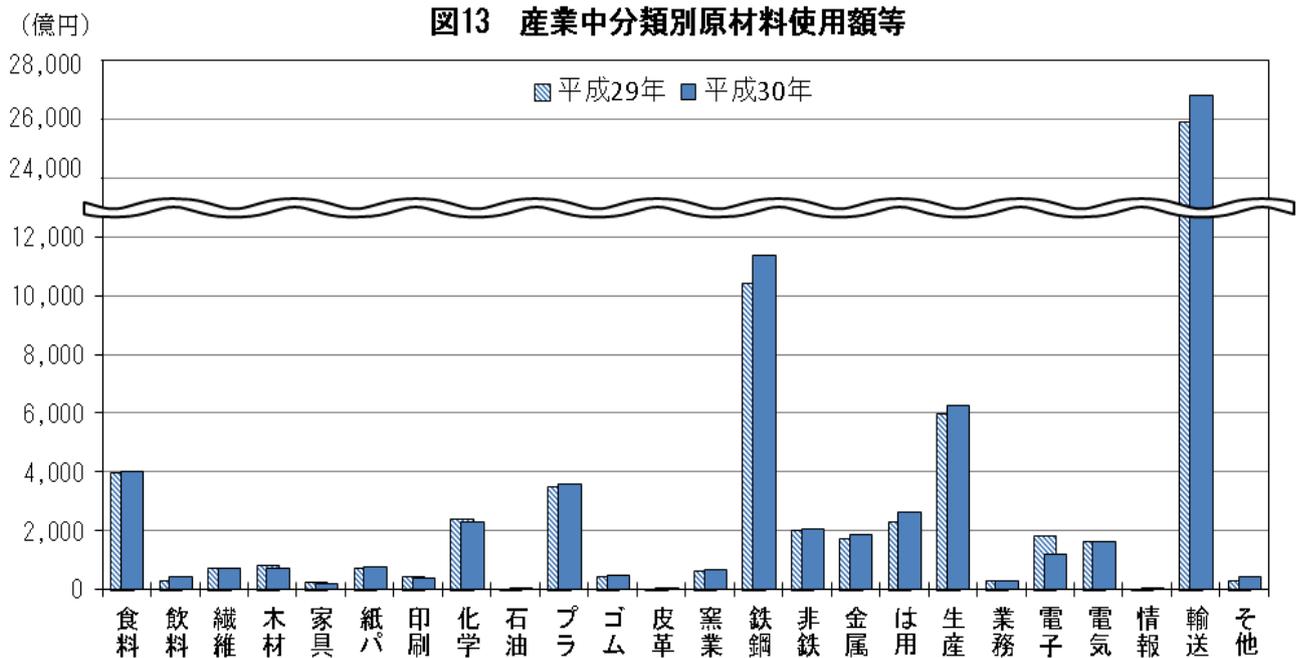
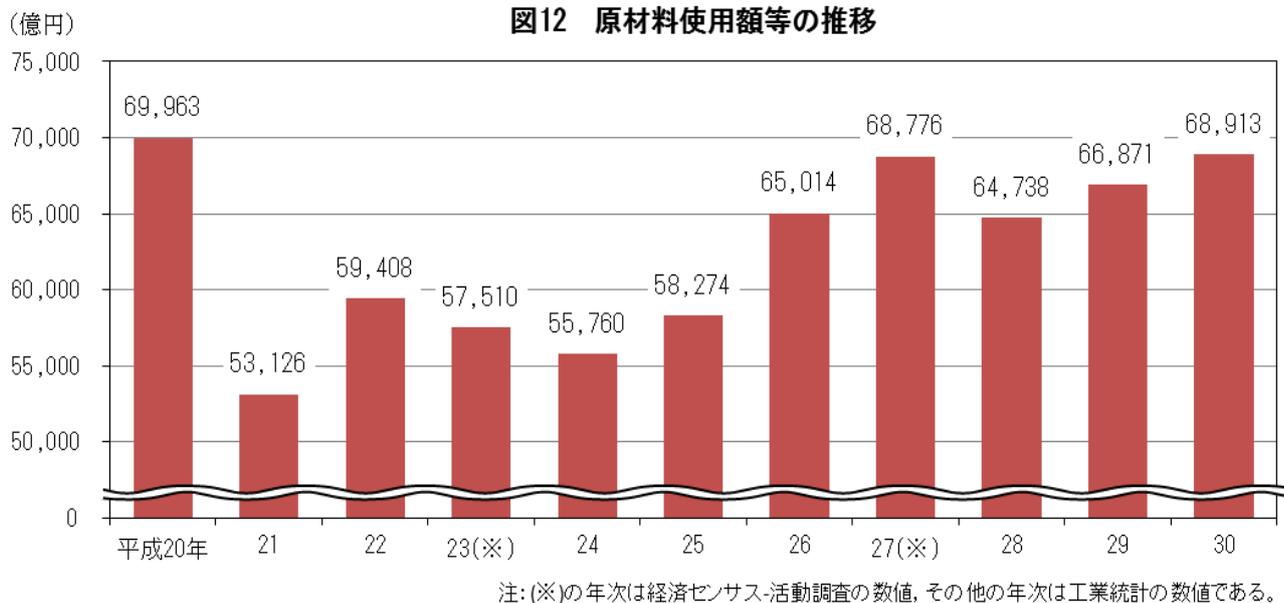


表13 産業中分類別原材料使用額等

(単位：億円，%)

| 産業中分類  | 原材料使用額等 |        | 前年差額  | 前年比    |
|--------|---------|--------|-------|--------|
|        | 平成29年   | 平成30年  |       |        |
| 総数     | 66,871  | 68,913 | 2,042 | 3.1    |
| 食料     | 3,970   | 4,011  | 42    | 1.0    |
| 飲料     | 301     | 440    | 138   | 46.0   |
| 繊維     | 752     | 739    | △ 13  | △ 1.7  |
| 木材     | 840     | 721    | △ 120 | △ 14.3 |
| 家具     | 232     | 199    | △ 33  | △ 14.3 |
| 紙製品    | 750     | 744    | △ 5   | △ 0.7  |
| 印刷     | 430     | 406    | △ 24  | △ 5.6  |
| 化学     | 2,389   | 2,308  | △ 82  | △ 3.4  |
| 石油     | 57      | 62     | 5     | 9.2    |
| プラスチック | 3,487   | 3,566  | 79    | 2.3    |
| ゴム     | 462     | 491    | 29    | 6.3    |
| なめし革   | 21      | 22     | 1     | 2.5    |
| 窯業     | 648     | 668    | 20    | 3.0    |
| 鉄鋼     | 10,433  | 11,361 | 928   | 8.9    |
| 非鉄     | 2,003   | 2,047  | 44    | 2.2    |
| 金属製品   | 1,751   | 1,852  | 100   | 5.7    |
| はん用機器  | 2,299   | 2,624  | 325   | 14.1   |
| 生産用機器  | 5,967   | 6,254  | 287   | 4.8    |
| 業務用機器  | 318     | 306    | △ 12  | △ 3.7  |
| 電子部品   | 1,817   | 1,206  | △ 611 | △ 33.6 |
| 電気機器   | 1,657   | 1,641  | △ 16  | △ 1.0  |
| 情報機器   | 48      | 19     | △ 29  | △ 60.3 |
| 輸送用機器  | 25,942  | 26,815 | 874   | 3.4    |
| その他    | 297     | 414    | 116   | 39.1   |

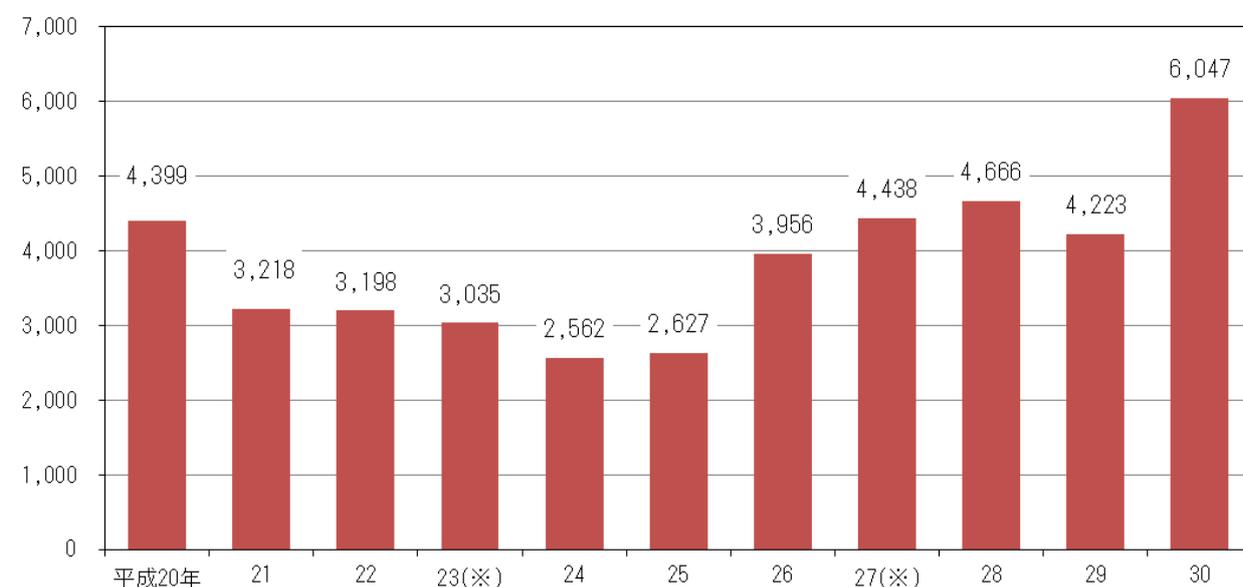
### (7) 有形固定資産投資総額（従業者 30 人以上の事業所） ～2年ぶりに増加～

有形固定資産投資総額は 6047 億円となり、2年ぶりの増加となった（前年比 43.2%増〔1824 億円増〕）（図 14、表 14）。

産業中分類別で有形固定資産投資総額が最も多いのは電子部品（2641 億円、構成比 43.7%）で、次いで輸送用機器（854 億円、構成比 14.1%）、鉄鋼（690 億円、構成比 11.4%）の順となっており、上位 3 業種で、全体の約 7 割（69.2%）を占めている。

前年と比較して増加したのは電子部品（前年比 303.9%増〔1987 億円増〕）、生産用機器（前年比 38.7%増〔86 億円増〕）、プラスチック（前年比 49.7%増〔85 億円増〕）など 10 業種であり、減少したのは輸送用機器（前年比 22.9%減〔254 億円減〕）、鉄鋼（前年比 7.7%減〔57 億円減〕）、電気機器（前年比 30.7%減〔48 億円減〕）など 12 業種であった（図 15、表 14）。

図 14 有形固定資産投資総額の推移（従業者30人以上の事業所）



注: (\*)の年次は経済センサス-活動調査の数値, その他の年次は工業統計の数値である。

図 15 産業中分類別有形固定資産投資総額（従業者30人以上の事業所）

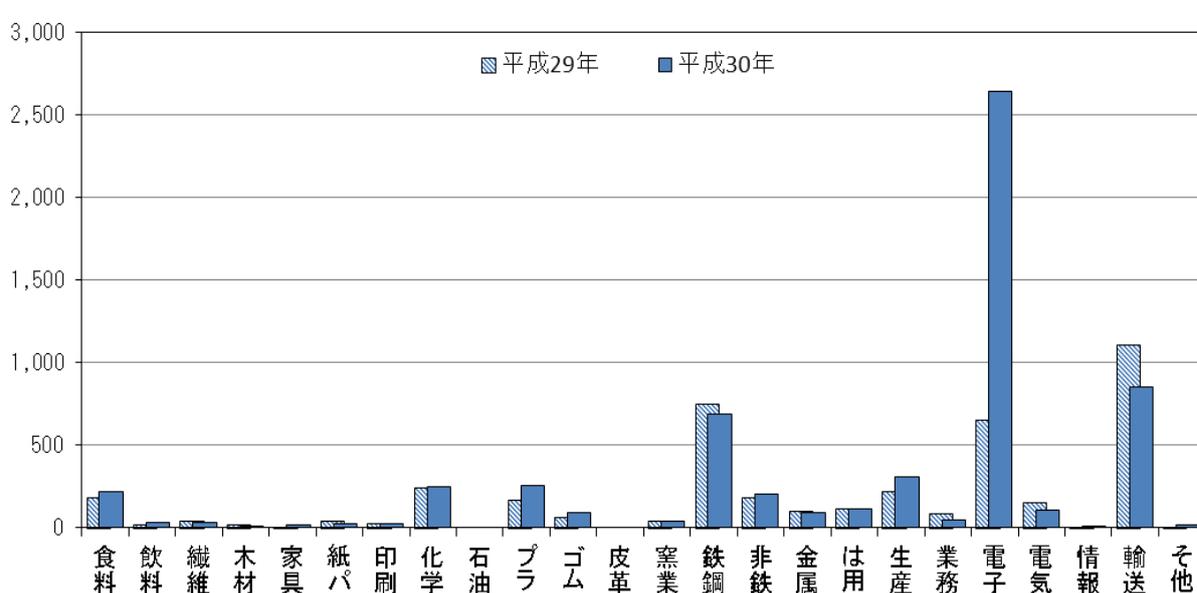


表14 産業中分類別有形固定資産投資総額（従業者30人以上の事業所）

（単位：億円，％）

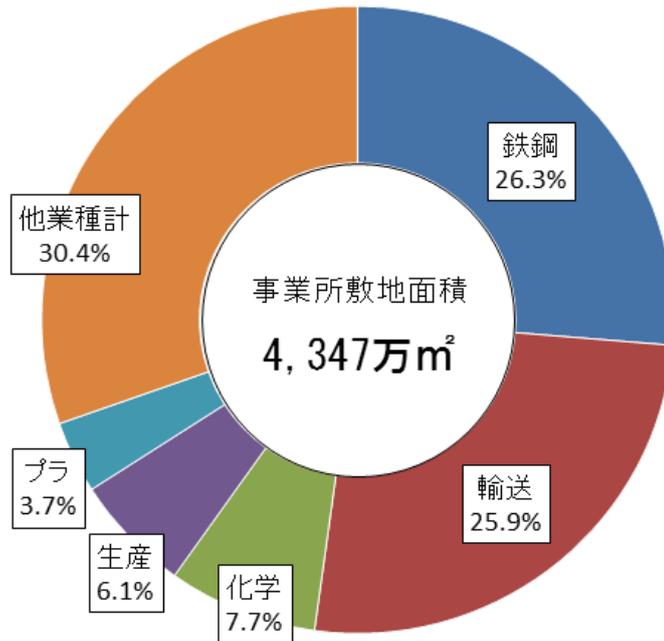
| 産業中分類  | 有形固定資産投資総額 |       | 前年差額  | 前年比    |
|--------|------------|-------|-------|--------|
|        | 平成29年      | 平成30年 |       |        |
| 総数     | 4,223      | 6,047 | 1,824 | 43.2   |
| 食料     | 184        | 215   | 31    | 16.9   |
| 飲料     | 18         | 33    | 15    | 85.0   |
| 繊維     | 38         | 29    | △ 9   | △ 24.9 |
| 木材     | 15         | 9     | △ 6   | △ 38.0 |
| 家具     | 8          | 12    | 4     | 52.6   |
| 紙製品    | 39         | 26    | △ 13  | △ 33.1 |
| 印刷     | 25         | 23    | △ 2   | △ 7.8  |
| 化学     | 243        | 246   | 3     | 1.1    |
| 石油     | X          | X     | X     | X      |
| プラスチック | 170        | 255   | 85    | 49.7   |
| ゴム     | 64         | 89    | 26    | 40.5   |
| なめし革   | X          | X     | X     | X      |
| 窯業     | 40         | 38    | △ 3   | △ 6.5  |
| 鉄鋼     | 747        | 690   | △ 57  | △ 7.7  |
| 非鉄     | 180        | 202   | 22    | 12.2   |
| 金属製品   | 97         | 92    | △ 6   | △ 5.8  |
| はん用機器  | 113        | 109   | △ 4   | △ 3.4  |
| 生産用機器  | 222        | 308   | 86    | 38.7   |
| 業務用機器  | 86         | 48    | △ 39  | △ 44.7 |
| 電子部品   | 654        | 2,641 | 1,987 | 303.9  |
| 電気機器   | 155        | 107   | △ 48  | △ 30.7 |
| 情報機器   | 7          | 3     | △ 3   | △ 48.9 |
| 輸送用機器  | 1,108      | 854   | △ 254 | △ 22.9 |
| その他    | 7          | 16    | 9     | 140.0  |

(8) 工業用地（従業者 30 人以上の事業所）

事業所敷地面積は、4346 万 7324 m<sup>2</sup>（前年比 0.7%減〔28 万 8272 m<sup>2</sup>減〕）となった。

産業中分類別で事業所敷地面積が最も大きいのは鉄鋼（1143 万 1132 m<sup>2</sup>，構成比 26.3%）で、次いで輸送用機器（1125 万 2033 m<sup>2</sup>，構成比 25.9%），化学（332 万 6648 m<sup>2</sup>，構成比 7.7%）の順となっており，上位 3 業種で，全体の約 6 割（59.9%）を占めている（図 16）。

図16 産業中分類別事業所敷地面積の構成比(%)

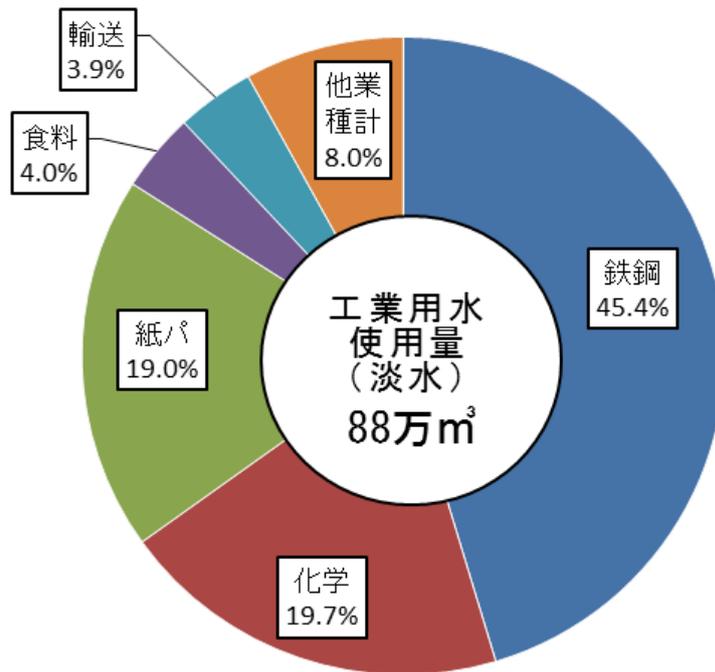


(9) 工業用水（従業者 30 人以上の事業所）

1 日当たりの工業用水使用量（淡水）は、87 万 5027 m<sup>3</sup>（前年比 1.4%減 [1 万 2228 m<sup>3</sup>減]）となった。

産業中分類別で工業用水使用量（淡水）が最も多いのは鉄鋼（39 万 6840 m<sup>3</sup>，構成比 45.4%）で、次いで化学（17 万 2749 m<sup>3</sup>，構成比 19.7%），紙製品（16 万 6044 m<sup>3</sup>，構成比 19.0%）の順となっており，上位 3 業種で，全体の 8 割以上（84.1%）を占めている（図 17）。

図17 産業中分類別工業用水使用量（淡水）の構成比（%）

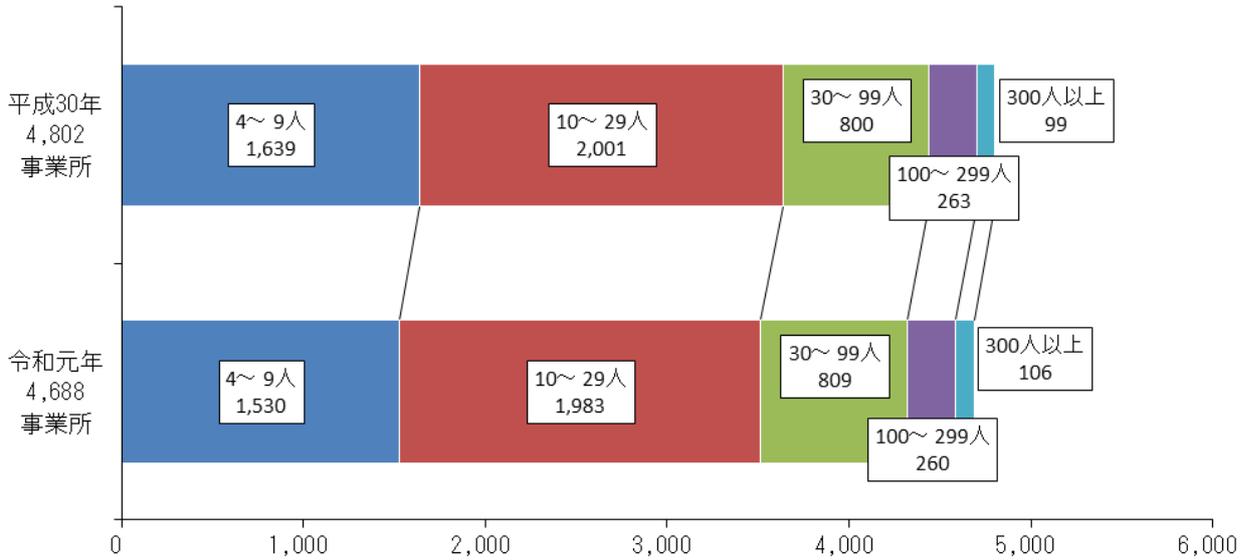


### 3 従業者規模別の状況

#### (1) 事業所数 ～100人未満規模の事業所が9割以上を占める～

事業所数が最も多いのは従業者規模「10～29人」（1983事業所、構成比42.3%）で、次いで「4～9人」（1530事業所、構成比32.6%）、「30～99人」（809事業所、構成比17.3%）の順となっており、100人未満規模の事業所数が4322事業所と全体の9割以上（92.2%）を占めている（図18）。

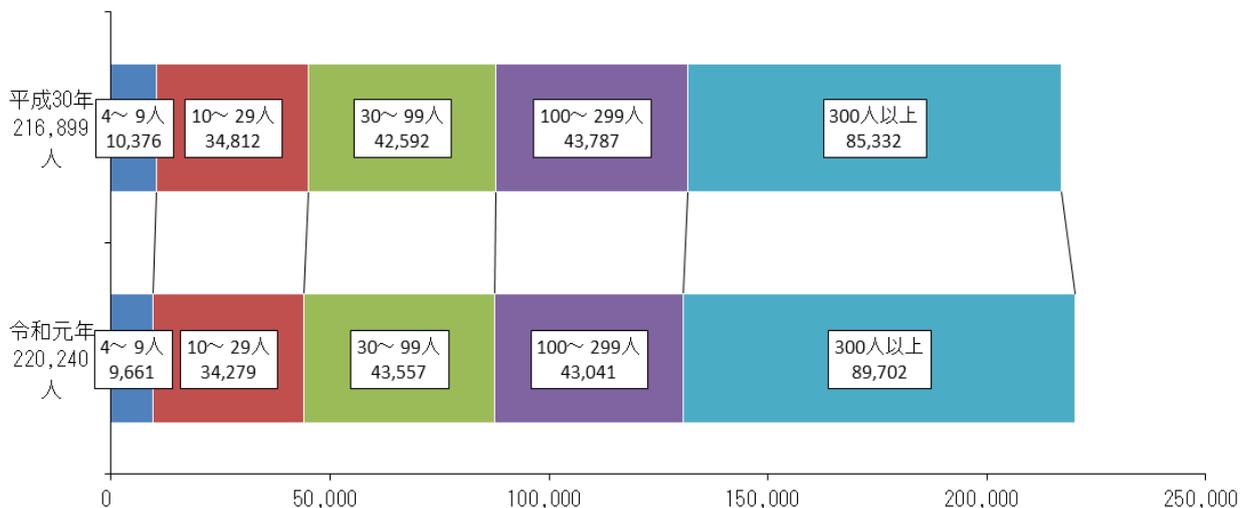
図18 従業者規模別の事業所数 （単位：所）



#### (2) 従業者数 ～100人以上規模の事業所が6割近くを占める～

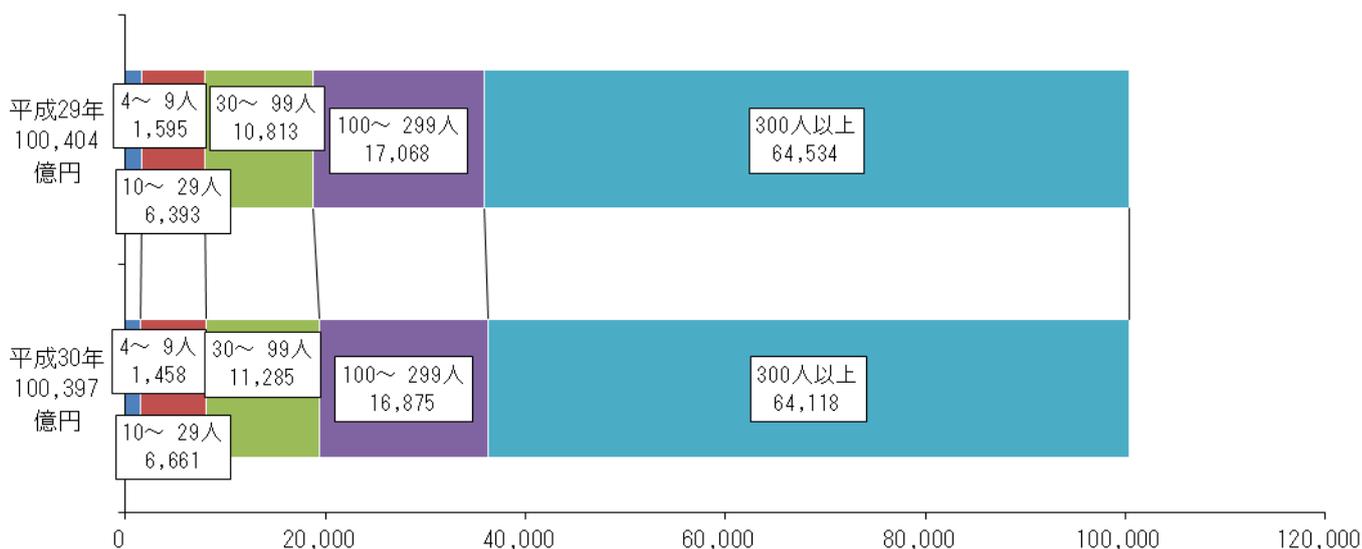
従業者数が最も多いのは従業者規模「300人以上」（8万9702人、構成比40.7%）で、次いで「30～99人」（4万3557人、構成比19.8%）の順となった。100人以上規模の事業所における従業者数は13万2743人と全体の約6割（60.3%）を占めている（図19）。

図19 従業者規模別の従業者数 （単位：人）



### (3) 製造品出荷額等 ～100人以上規模の事業所が約8割を占める～

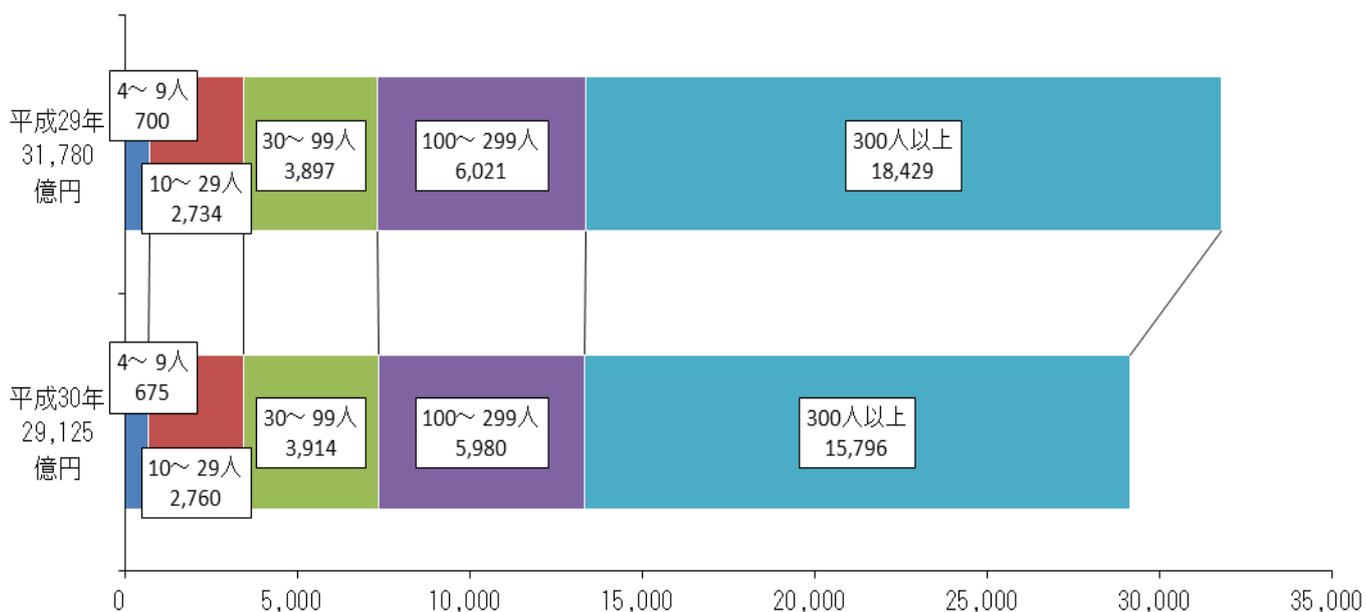
製造品出荷額等が最も多いのは従業者規模「300人以上」(6兆4118億円, 構成比63.9%)で、次いで「100～299人」(1兆6875億円, 構成比16.8%)の順となっており、100人以上規模の事業所における製造品出荷額等が8兆993億円と全体の約8割(80.7%)を占めている(図20)。



### (4) 付加価値額 ～100人以上規模の事業所が8割近くを占める～

付加価値額が最も多いのは従業者規模「300人以上」(1兆5796億円, 構成比54.2%)で、次いで「100～299人」(5980億円, 構成比20.5%)の順となっており、100人以上規模の事業所における付加価値額が2兆1776億円と全体の7割以上(74.8%)を占めている(図21)。

図21 従業者規模別の付加価値額 (単位: 億円)



#### 4 市町別の状況

##### (1) 事業所数 ～福山市，広島市，東広島市で6割近くを占める～

市町別で事業所数が最も多いのは福山市（1140 事業所，構成比 24.3%）で，次いで広島市（1126 事業所，構成比 24.0%），東広島市（417 事業所，構成比 8.9%）の順となっており，この3市で全体の6割近く（57.2%）を占めている（図22）。

前年と比較して増加したのは呉市（6 事業所増），庄原市（1 事業所増），江田島市（1 事業所増）など4市町であり，減少したのは福山市（41 事業所減），広島市（35 事業所減），府中市（9 事業所減）など18市町であった。世羅町には増減がなかった（表15）。

図22 事業所数の上位10市町（単位：所）

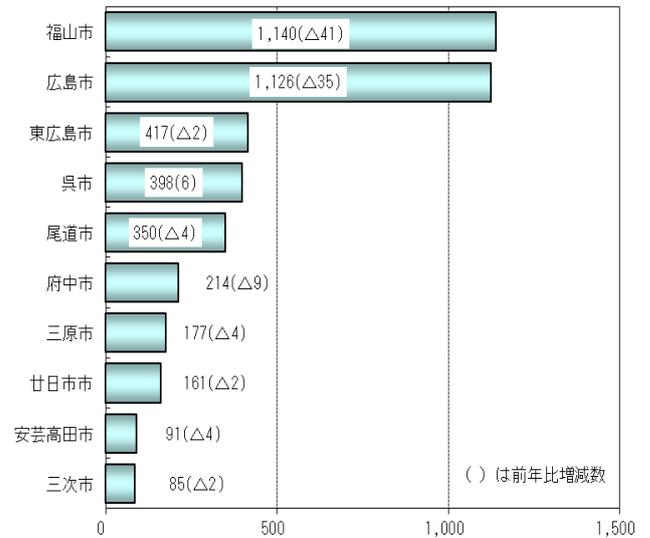


表15 事業所数の増減の大きな市町（従業者4人以上の事業所）（単位：所，%）

| 増加   |       |      |     |     | 減少  |       |       |     |      |
|------|-------|------|-----|-----|-----|-------|-------|-----|------|
| 市町   | 平成30年 | 令和元年 | 増加数 | 前年比 | 市町  | 平成30年 | 令和元年  | 減少数 | 前年比  |
| 呉市   | 392   | 398  | 6   | 1.5 | 福山市 | 1,181 | 1,140 | △41 | △3.5 |
| 庄原市  | 74    | 75   | 1   | 1.4 | 広島市 | 1,161 | 1,126 | △35 | △3.0 |
| 江田島市 | 36    | 37   | 1   | 2.8 | 府中市 | 223   | 214   | △9  | △4.0 |

（増減数の大きな上位3市町）

##### (2) 従業者数 ～広島市，福山市，東広島市で5割以上を占める～

市町別で従業者数が最も多いのは広島市（5万6341人，構成比 25.6%）で，次いで福山市（4万355人，構成比 18.3%），東広島市（2万2619人，構成比 10.3%）の順となっており，この3市で全体の5割以上（54.2%）を占めている（図23）。

前年と比較して増加したのは東広島市（1458人増），広島市（607人増），尾道市（426人増）など14市町で，減少したのは呉市（233人減），北広島町（72人減），竹原市（48人減）など9市町であった（表16）。

図23 従業者数の上位10市町（単位：人）

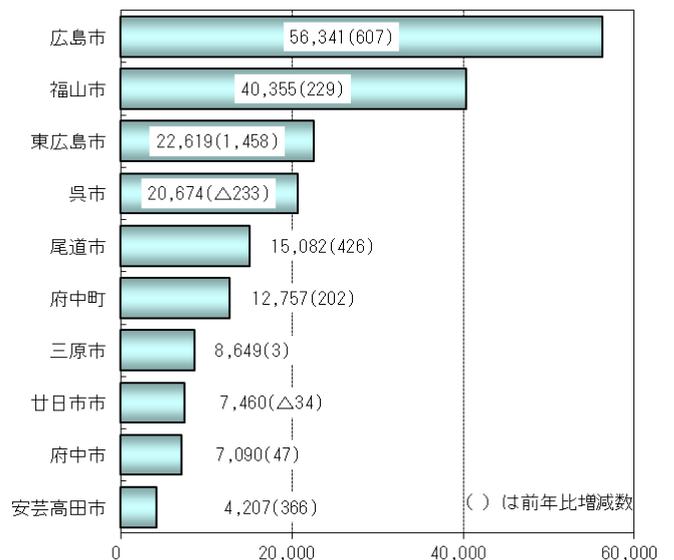


表16 従業者数の増減の大きな市町（従業者4人以上の事業所）（単位：人，%）

| 増加   |        |        |       |     | 減少   |        |        |      |      |
|------|--------|--------|-------|-----|------|--------|--------|------|------|
| 市町   | 平成30年  | 令和元年   | 増加数   | 前年比 | 市町   | 平成30年  | 令和元年   | 減少数  | 前年比  |
| 東広島市 | 21,161 | 22,619 | 1,458 | 6.9 | 呉市   | 20,907 | 20,674 | △233 | △1.1 |
| 広島市  | 55,734 | 56,341 | 607   | 1.1 | 北広島町 | 3,819  | 3,747  | △72  | △1.9 |
| 尾道市  | 14,656 | 15,082 | 426   | 2.9 | 竹原市  | 1,743  | 1,695  | △48  | △2.8 |

（増減数の大きな上位3市町）

(3) 製造品出荷額等 ～広島市，福山市，呉市で約6割を占める～

市町別で製造品出荷額等が最も多いのは広島市（3兆1667億円，構成比31.5%）で，次いで福山市（1兆7930億円，構成比17.9%），呉市（1兆963億円，構成比10.9%）の順となっており，この3市で全体の約6割（60.3%）を占めている（図24）。

前年と比較して増加したのは福山市（672億円増），東広島市（172億円増），坂町（143億円増）など11市町で，減少したのは広島市（408億円減），府中町（263億円減），尾道市（223億円減）など12市町であった（表17）。

図24 製造品出荷額等の上位10市町（単位：億円）

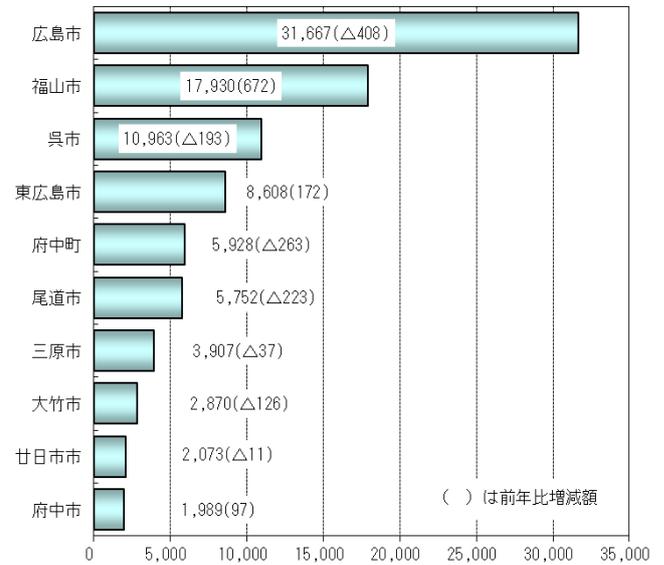


表17 製造品出荷額等の増減の大きな市町（従業者4人以上の事業）（単位：億円，%）

| 増加   |        |        |     |      | 減少  |        |        |      |      |
|------|--------|--------|-----|------|-----|--------|--------|------|------|
| 市町   | 平成29年  | 平成30年  | 増加額 | 前年比  | 市町  | 平成29年  | 平成30年  | 減少額  | 前年比  |
| 福山市  | 17,259 | 17,930 | 672 | 3.9  | 広島市 | 32,076 | 31,667 | △408 | △1.3 |
| 東広島市 | 8,436  | 8,608  | 172 | 2.0  | 府中町 | 6,191  | 5,928  | △263 | △4.2 |
| 坂町   | 817    | 960    | 143 | 17.5 | 尾道市 | 5,975  | 5,752  | △223 | △3.7 |

（増減額の大きな上位3市町）

(4) 付加価値額 ～広島市，呉市，福山市で6割近くを占める～

市町別で付加価値額が最も多いのは広島市（9256億円，構成比31.8%），次いで呉市（4018億円，構成比13.8%）福山市（3779億円，構成比13.0%），の順となっており，この3市で全体の6割近く（58.6%）を占めている（図25）。

前年と比較して増加したのは府中市（122億円増），東広島市（103億円増）安芸高田市（79億円増）など10市町で，減少したのは広島市（2080億円減），呉市（651億円減），府中町（118億円減）など13市町であった（表18）。

図25 付加価値額の上位10市町（単位：億円）

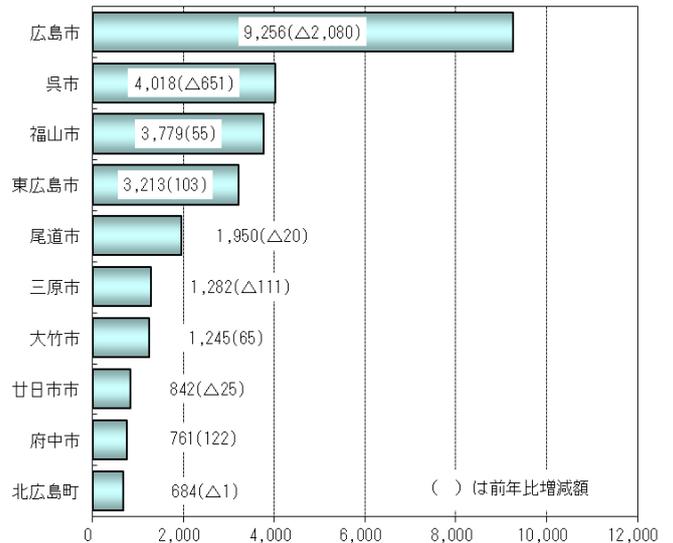
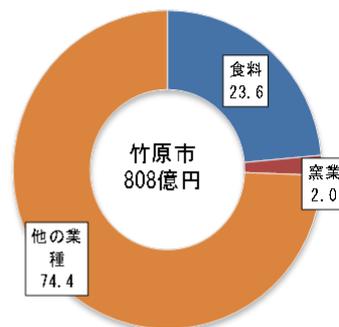
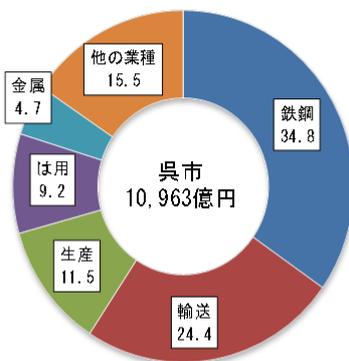
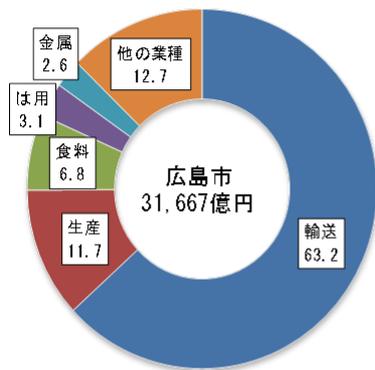


表18 付加価値額の増減の大きな市町（従業者4人以上の事業所）（単位：億円，%）

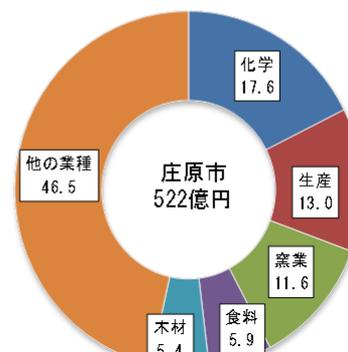
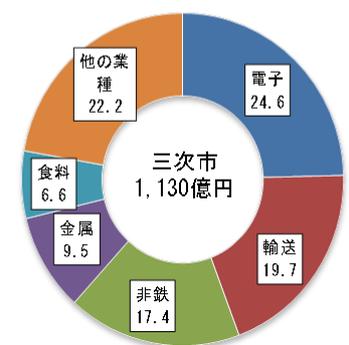
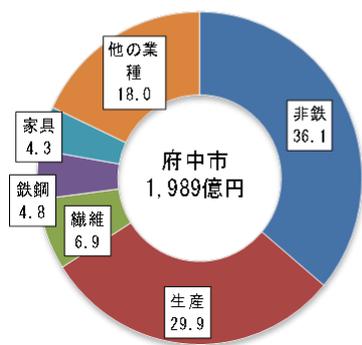
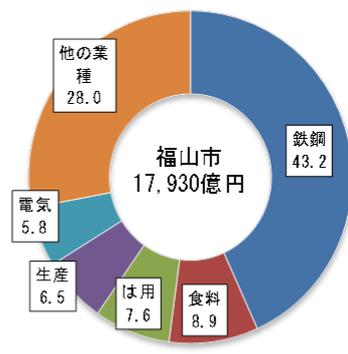
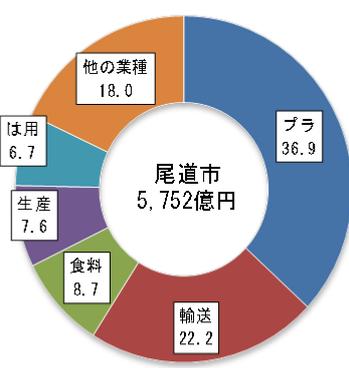
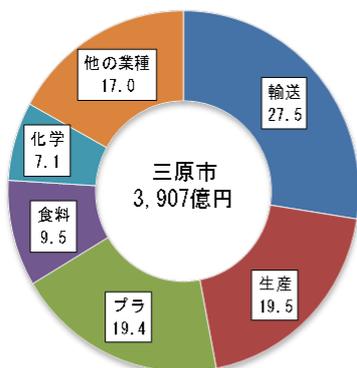
| 増加    |       |       |     |      | 減少  |        |       |        |       |
|-------|-------|-------|-----|------|-----|--------|-------|--------|-------|
| 市町    | 平成29年 | 平成30年 | 増加額 | 前年比  | 市町  | 平成29年  | 平成30年 | 減少額    | 前年比   |
| 府中市   | 638   | 761   | 122 | 19.2 | 広島市 | 11,336 | 9,256 | △2,080 | △18.3 |
| 東広島市  | 3,110 | 3,213 | 103 | 3.3  | 呉市  | 4,669  | 4,018 | △651   | △13.9 |
| 安芸高田市 | 383   | 463   | 79  | 20.7 | 府中町 | 489    | 371   | △118   | △24.1 |

（増減額の大きな上位3市町）

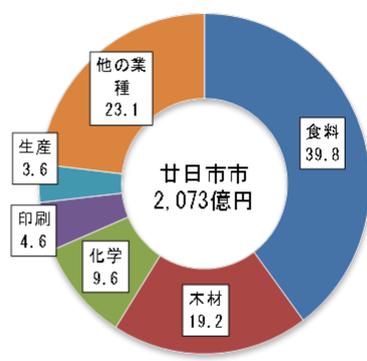
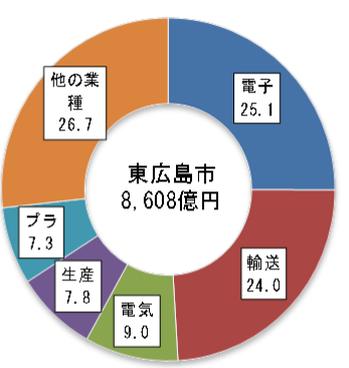
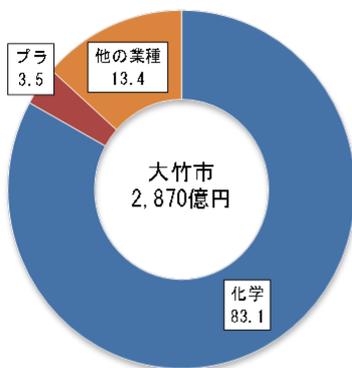
図26 市町別 製造品出荷額等の構成比(%)



※ 竹原市の構成比第1位「非鉄」、第3位「化学」、第4位「プラスチック」、第5位「ゴム」は秘匿のため、「他の業種」に含む。

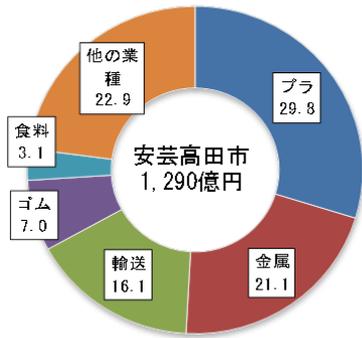


※ 庄原市の構成比第1位「業務用機器」は秘匿のため、「他の業種」に含む。

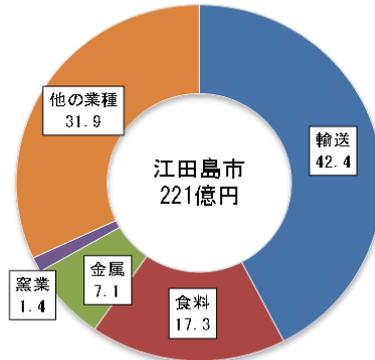


※ 大竹市の構成比第2位「紙製品」、第4位「はん用機器」、第5位「ゴム」、第8位「金属」は秘匿のため、「他の業種」に含む。

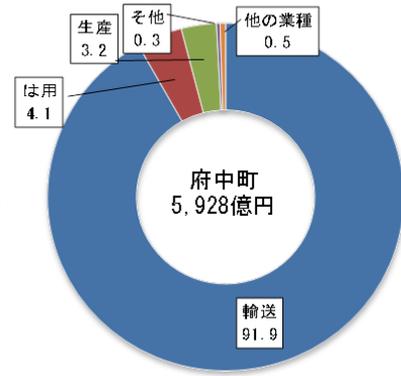
図26 市町別 製造品出荷額等の構成比(%) (続き)



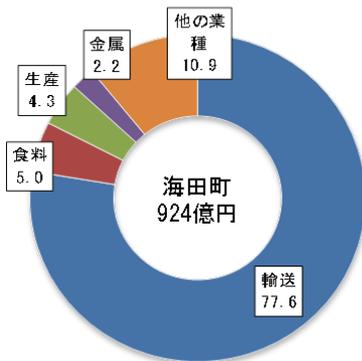
※ 安芸高田市の構成比第5位「鉄鋼」は秘匿のため、「他の業種」に含む。



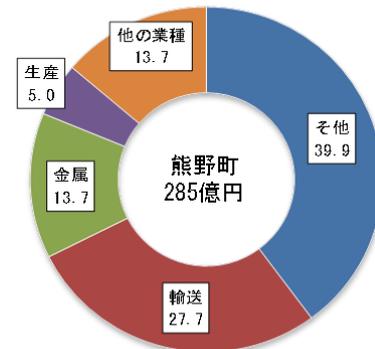
※ 江田島市の構成比第2位「業務用機器」、第5位「生産用機器」は秘匿のため、「他の業種」に含む。



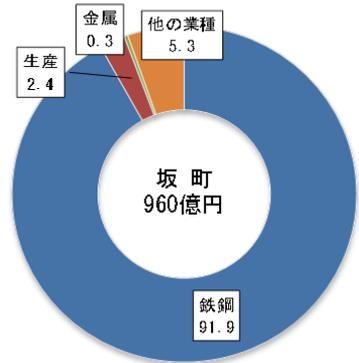
※ 府中町の構成比第4位「電気機器」、第8位「金属製品」は秘匿のため、「他の業種」に含む。



※ 海田町の構成比第3位「紙製品」、第5位「鉄鋼」は秘匿のため、「他の業種」に含む。



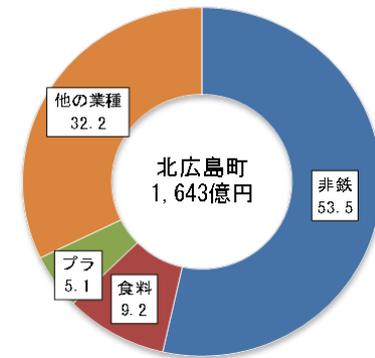
※ 熊野町の構成比第5位「窯業」は秘匿のため、「他の業種」に含む。



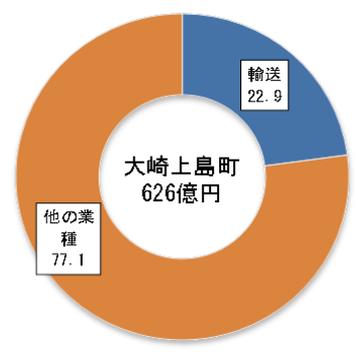
※ 坂町の構成比第2位「食料」、第4位「窯業」、第8位「電気機器」は秘匿のため、「他の業種」に含む。



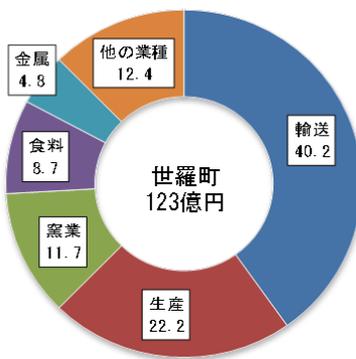
※ 安芸太田町の構成比第1位「プラスチック」、第2位「食料」、第3位「金属製品」、第4位「電気機器」、第5位「窯業」は秘匿のため、「他の業種」に含む。



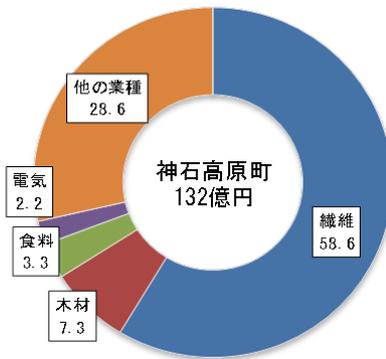
※ 北広島町の構成比第3位「電気機器」、第5位「業務用機器」第8位の「輸送用機器」は秘匿のため、「他の業種」に含む。



※ 大崎上島町の構成比第1位の「非鉄」、第3位の「化学」、第4位の「食料」は秘匿のため、「他の業種」に含む。



※ 世羅町の構成比第5位の「化学」は秘匿のため、「他の業種」に含む。



※ 神石高原町の構成比第2位の「非鉄」、第5位の「輸送用機器」は秘匿のため、「他の業種」に含む。